

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間：2008年10月下旬から12月上旬までの旬別
 対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業：さんま棒受網漁業
 対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量：ゆるやかに減少し、低位水準となる。11月上旬にはほぼ終漁となる。

(2) 漁場：10月下旬は、落石～厚岸沖での漁場形成が徐々に散発的となり、釧路～襟裳岬沖が漁場となる。11月上旬は襟裳岬沖でも散発的となり、終漁する。

2) 三陸海域

(1) 来遊量：10月下旬は高位水準へ増加する。11月上旬以降はゆるやかに減少し、11月中旬～下旬は中位水準、12月上旬は低位水準となる。

(2) 漁場：10月下旬～11月上旬は、久慈～金華山沖が漁場となる。11月中旬には久慈沖の漁場が消滅し、11月中旬～下旬は宮古～金華山沖が漁場となる。12月上旬は、三陸南部の気仙沼～金華山沖が漁場となる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量：来遊量は徐々に増加し、10月下旬は中位水準、11月中旬は高位水準となる。11月下旬以降はゆるやかに減少し、12月上旬は中位水準となる。

(2) 漁場：来遊が本格化する10月下旬は、常磐北部が主漁場となり、11月上旬には常磐南部まで漁場が広がる。11月上旬～12月上旬は、常磐北部～南部にかけて漁場ができる。

2. 予測の概要

海 域		10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位減少	低位減少			
	漁 場	落石～厚岸沖 釧路～襟裳岬沖	襟裳岬沖			
三陸海域	来遊量					
	動向	高位水準	高位減少	中位減少	中位減少	低位減少
	漁 場	久慈～金華山沖	久慈～金華山沖	宮古～金華山沖	宮古～金華山沖	気仙沼～金華山沖
常磐海域	来遊量					
	動向	低位増加	中位増加	高位増加	高位減少	中位減少
	漁 場	北部	北部～南部	北部～南部	北部～南部	北部～南部

3. 漁況の経過概要

(10月上旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前旬をやや下回ったものの、前年をやや上まわり、高位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期後半にかけて徐々に来遊量は減少した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石～釧路沖、襟裳岬沖であった。

落石南東～釧路南南東の20～60海里付近(表面水温13～17℃)。8日夜以降は、落石沖の漁場が消滅。連日小型船主体に大型船も数隻～30隻程度操業。小型船は5～25トン程度、大型船は50～100トン以上漁獲する船が多かった。

襟裳岬東南東～南南東の45～70海里付近(表面水温13～17℃)。4日夜と7～8日夜に大型船が数隻操業。95トン程度漁獲した船もあったが、多くの船は20～60トン程度。

(3) 魚体

29～30cm モードの大型魚が主体。中型以下の魚の混じり具合は、0.4～1.5割程度。体重140～150g台が主体。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前旬を上回ったものの、前年を下回り、中位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期後半にかけて徐々に来遊量が増加した。

(2) 漁場

1日夜以降、漁場が形成されるようになった。三陸海域の主漁場は、久慈～山田沖であった。

久慈東北東～山田東沖の10～70海里付近(表面水温13～17℃)。連日大型船が数隻～30隻程度操業。期前半は沿岸から60～70海里離れた場所で操業する船が多かったが、8日夜以降は10～40海里付近での操業船が増えた。10トン程度しか漁獲できない場所もあったが、期後半には100トン以上漁獲する船が多くなった。

(3) 魚体

30～31cm モードの大型魚が主体。